

# 福知山市型多様な学びアクションプラン 改訂の経緯

第1期の成果に基づく、第2期への発展的統合プロセス

## ◎ 改訂のポイント

第1期(R5-7)の教育分野と保健・福祉分野の連携、「アナザークラス6校設置」や「SIROらぼの設置」等の成果を基盤に、第2期では個別の「居場所の設置」から「学びの保障」へフェーズを移行し、支援が必要な子どもを含むすべての子どもの情報を適切に共有する体制を構築する。

### 第1期（6本の柱）と主な成果

#### 01 相談・対応力の充実強化、実態把握の深化

初回相談記録シートのフォーマットを統一することで、必要な情報を共有でき、教育分野だけではなく保健・福祉分野の視点も含めたケースアセスメントに繋がった。

#### 02 予防的視点での早期対応・早期連携

多様な学び推進担当者会議のメンバーに、特別支援教育の専門官を加えるとともにけやき広場の職員を加えた拡大会議を月1回開催し、令和7年度については50名（新規）の児童生徒の情報共有や支援の検討を行った。より幅広く情報共有や支援方針の検討ができ、教育分野と保健・福祉分野の視点も含めたアプローチができるようになっている。

#### 03 多様な学び、安心できる居場所の設置

アナザークラスは令和5年度から7年度に6校（小学校1校、中学校5校）を設置した。令和6年度は小学生4名、中学生52名が通学できており、自身がめざす進路に向けてスケジュールをたて、学習や小集団活動などに取り組んでいる。子どもの居場所として、令和5年度にSIROらぼを開設し、令和5年度には23名、令和6年度には36名、令和7年度には40名が利用した。

#### 04 学校対応や教育支援のさらなる充実

けやき広場は適応指導の概念を廃し、社会的自立をめざし一人ひとりのニーズに応じた学習支援や小集団での活動などを実践した。読み書きの学習支援ソフト「まるぐランド」を導入した。チェックテストでは、読み書きに困り感のある児童の割合が減少している。

#### 05 地域・支援者・保護者の理解促進

毎月1回、保護者の交流の場として「語らいらぼ」を実施することができた。参加する保護者からは、「交流の場を行政が持ってくれたことに感謝する」、「ここで話を聞くことができ子どもとの関わり方が変わった」、などの感想があった。

#### 06 支え手となるネットワークづくり

民間のフリースクール、学習支援をする機関、ひきこもりの支援機関等との交流会「ふくちこどもネットワーク」を年2回程度定期的に実施できた。現状や課題を共有し、顔の見える関係性をつくることができた。

### 課題としての現状認識

#### 現状認識

「場の設置」によって子どもたちに成長が見られ、次の段階として学びの質的充実を図る必要がある。

第1期アクションプランの成果により、学校や家庭から多くの情報が寄せられるようになった。一方で従来の「待ちの姿勢」では支援が届かない潜在的ニーズが明らかになってきている。

義務教育終了後20歳前後の子ども・若者の支援の場が不足している。

### 第2期（3本の柱）

#### 01 多様な学びの場の質的充実

「設置」から「保障」へ。アナザークラスやブランチスクールの整備に加え、ICT活用やオンライン学習を含めた「個に応じた学びの保障」を推進する。

#### 02 切れ目のない包摂的支援体制の構築

就学前から20歳前後まで、「多様な学び推進センター」機能を中心に、早期発見・早期対応の仕組みを構築する。

#### 03 地域共生ネットワークの深化

顔の見える関係へ。20歳前後までの子ども・若者をもつ保護者を含むあらゆる保護者への支援の充実と、民間団体等との協働による「社会全体で子どもを支える」ネットワークを確立する。

# 第2期 福知山市型多様な学びアクションプラン

対象期間：令和8年度～令和10年度

## 方針

第1期プランでは支援体制の基盤整備と具体的な居場所づくりにおいて確実な前進が見られた。しかし現在、不登校児童生徒数は増加している。また、子どもたちを取り巻く環境は急速に変化しており、今日的な課題への対応が急務となっている。こうした状況の中で、多様学びを保障することの重要性をさらに強く認識している。また、潜在的な支援ニーズを早期に掘り起こし、個々の状況に応じた柔軟な学びを保障することが不可欠だと考える。そこで第2期では、「①多様な学びの場の質的充実」と「②切れ目のない包摂的支援体制の構築」を二大軸として、組織の枠を超えた「③地域共生ネットワークの深化」を目指す。

## Core 第2期の重点目標（令和10年度末）

### ① 多様な学びの場の質的充実



○アナザークラスについては、小中合わせて6校の設置を継続する。アナザークラスの未設置校については実態に即して効果的な整備を図る。特に小学校は、支援員を活用し、寄り添いの機能を重視した支援を行う。

指標：利用満足度100%

○ICT活用やオンライン学習を含めた「個に応じた学びの保障」を推進する。指標：利用満足度100%

○ブランチスクールは福知山市の支援体制の中での位置づけや必要な機能を考えた上で、概要や教育課程の検討等、設置準備をする。OSIROらばは引き続き、家から1歩踏み出す中間地点、安心できる居場所として位置付け、教育分野につなぐ福知山市型支援（※）の充実を図る。指標：利用満足度100%

※福知山市型支援：教育と保健福祉、民間と行政がそれぞれの強みを活かし、連携しながら行う包括的に支援

### ② 切れ目のない包摂的支援体制の構築



○「多様な学び推進センター」の機能を整備し、子どもの学びを支えるためのコーディネートをする。

○初回相談記録シートについて統一のフォーマットを使用し、教育分野、保健・福祉分野のアセスメントを共有し子どもにとって効果的なアプローチを推進する。

指標：初回相談（こども家庭支援課・教育相談室）記録シートフォーマット利用率100%

○教員を対象に、「気づきシート」（※）の活用を含めた、子どもや保護者への対応力向上を目的とした研修等を実施する。

指標：「気づきシート」を含めたスクリーニング、アセスメント実施率100%

○4歳児クラス健診と就学前スクリーニングを連動させ、小学校へ連携する仕組みの構築

※「気づきシート」：教員が使用する、不登校課題のリスク要因を早期に見出すスクリーニングシート（京都教育大学と共同作成）

### ③ 地域共生ネットワークの深化



○平日以外でも相談できるよう、休日の相談会は継続する。  
○学校等の関係機関との連携の中で、支援を必要とする保護者の把握に努める。

○「語らいらぼ」や個別相談で語られる、保護者の思いやニーズを施策に反映していく。

○ネットワークの団体とともに、講演会等の啓発活動を実施する。

○「ふくちこどもネットワーク」の中で課題を共有し連携して支援しながら、繋がり先の開拓も行い、公的機関だけではなく福知山市にある多様な学びについて支援が受けられる施設・機関を示した図「福知山市型支援マップ」の作成をする。

期待される効果

#### 短期：安心と信頼

多様な居場所・学びの確保により、さまざまな困り感をいただく児童生徒の不安を解消。保護者の孤立感を防ぐ。

#### 中長期：社会的自立

「誰一人取り残されない」学びの保障により、将来的な社会的自立を促す。